

2 施肥と土づくり

「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した堆肥及び肥料の施用例を表3に示します。堆肥による土づくりに加えて、各圃場の施肥量は土壌診断に基づいて決めます。

土づくりや有機質肥料を含む肥料の施用により、「ちばエコ農産物」栽培基準の達成が可能です。ただし、登録名称内に「有機」などの文字が記載された肥料であっても化学肥料由来の窒素を含んでいることが多いので、JAまたは肥料販売業者に問い合わせ、有機質由来と化学肥料由来の窒素の割合を把握しておく必要があります。

「ちばエコ農産物」栽培基準では、堆肥の目安量を記載しています。堆肥を施用する場合は、堆肥に由来する肥料成分を考慮し、作物が必要とする成分を上回らないよう気をつけましょう。堆肥の肥料成分については、主要農作物等施肥基準(平成21年3月千葉県)を参考にしてください。

表3 ズッキーニ・ハウス初夏どり栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した堆肥及び肥料の施用例

区分	製品名	保証成分量(%)			現物施用量 (kg/10a)	成分施用量(kg/10a)		
		窒素	りん酸	加里		窒素	りん酸	加里
堆肥	牛ふんもみから堆肥				1,600			
基肥	ジシアン有機特806	8(5.5)	10	6	80	6.4(4.4)	8.0	4.8
	ロイヤル有機684	6(0.0)	8	4	120	7.2(0.0)	9.6	4.8
	苦土石灰				80			
総施用量						13.6(4.4)	17.6	9.6

注) () 内は、総窒素量のうち、化学肥料由来の窒素成分量

「ちばエコ農産物」栽培基準、主要農作物等施肥基準は千葉県ホームページから見るができます。

県ホームページ ホーム > しごと・産業 > 農林水産業 > 農業 > 農業生産

<http://www.pref.chiba.lg.jp/shigoto-sangyou/nourinsuisan/nougyou/seisan/index.html>

☆この「品目別栽培カード」に記載した農薬・肥料使用例は、平成24年度現地実証試験時点のもので

す。実際の農薬使用に際しては、ラベルの表示をよく確認するとともに、最新の農薬使用基準を守って使用してください。

なお、栽培基準は平成25年1月改訂後のものを記載しています。

●著 作 千葉県農林水産部担い手支援課
千葉県農林総合研究センター

●編集・発行 千葉県農林水産部安全農業推進課
●発行年月日 平成26年1月

■内容についての問い合わせ先
千葉県農林総合研究センター
北総園芸研究所 東総野菜研究室
TEL. 0479 (57) 4150

CHIBAちば

「ちばエコ農産物」栽培のために!
(品目別栽培カード 37)



ズッキーニ・ハウス初夏どり栽培

千葉県農林水産部

1 栽培基準

ズッキーニの「ちばエコ農産物」の栽培基準は、9～1月収穫の抑制栽培、1～5月収穫の半促成栽培、5～8月収穫のハウス初夏どり栽培の3作型が設けられています。

ハウス初夏どり栽培における化学合成農薬の使用成分回数と化学肥料使用量(窒素成分量)は、表1のとおりです。



▲ズッキーニのハウス初夏どり栽培

表1 ズッキーニ・ハウス初夏どり栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準

(平成25年4月現在)

作 型	上 限 量		堆肥目安量(kg/10a)			
	化学合成農薬 (使用成分×回数)	化学肥料使用量 (窒素成分kg/10a)	牛ふん	豚ふん	鶏ふん	土づくり的堆肥 ^{注2}
ハウス 初夏どり	8 (8) ^{注1}	8.5	1,600	600	400	2,000

注1) カッコ内は購入苗の場合

2) 土づくり的堆肥とは、土づくり効果の高い有機質資材(炭素率30以上又は全窒素含有量1%(乾物当たり2%以下))の堆肥をいう。

2 栽培基準達成のポイントと考え方

1 病虫害防除

「ちばエコ農産物」の栽培基準に適合した農薬防除例を表2に示します。

栽培基準を満たす病虫害防除を行うためには、防除する必要がある病虫害を把握し、適期防除を行うことが重要です。ズッキーニ・ハウス初夏どり栽培で最も重要な病害はうどんこ病、害虫はアブラムシ類です。うどんこ病は一度発生すると発生条件によっては急速に蔓延して防除が困難になるため、化学合成農薬に含めない農薬を活用して予防的な散布を行います。アブラムシ等の害虫には、発生状況を観察して発生初期に防除を行うことにより、散布回数を低減させます。これらの薬剤散布に加え、病虫害が発生しにくい環境を作る等の耕種的防除も重要です。

表2 ズッキーニ・ハウス初夏どり栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した農薬防除例

処理時期	主要作業	農薬名	10aあたり使用量 (希釈倍数等)	対象病虫害	備考
4月中旬	定植	ネマトリンエース粒剤	20kg	ネコブセンチュウ	発生圃場を使用
		ベストガード粒剤 (又はスタークル粒剤)	1~2g/株 (2g/株)	アザミウマ類 (アブラムシ類)	植穴処理土壌混和
4月下旬	生育期	※インプレッション水和剤	500~1,000倍	うどんこ病	予防的に使用
5月上旬	収穫期	※インプレッション水和剤	500~1,000倍	うどんこ病	予防的に使用
5月中旬		モスピランジェット	50g/400㎡	アブラムシ類	発生初期に使用
		※ジーファイン水和剤	750~1,000倍	うどんこ病	予防的に使用
5月下旬		※サンクリスタル乳剤	300倍	アブラムシ類	発生初期に使用
		(又は※エコピタ液剤)	300~600倍 (100倍)	うどんこ病	
6月上旬		チェス水和剤	2,000倍	アブラムシ類	発生初期に使用
		パンチョTF顆粒水和剤	4,000倍	うどんこ病	予防的に使用
6月中旬		バリアード顆粒水和剤	4,000倍	アブラムシ類	発生初期に使用
		※ジーファイン水和剤	750~1,000倍	うどんこ病	予防的に使用

注) ※印は、「ちばエコ農産物」栽培基準における化学合成農薬に含めない農薬

A 育苗期から定植時

●防虫ネットの展張により害虫の侵入を防ぎます

育苗ハウス及び本圃の開口部に0.8mm目合い以下の防虫ネットを展張することにより、アブラムシをはじめとした害虫の侵入を防ぎます。

防虫ネットを展張したハウス▶



●発生圃場ではセンチュウを防除します

前作でセンチュウ被害が認められた圃場では、定植前にネマトリンエース粒剤を土壌混和し、センチュウの密度を下げます。

●定植時の粒剤施用で害虫の初期防除をします

生育初期にアブラムシ、アザミウマ等の微小害虫が寄生するとその後の生育が不良となるため、これらの害虫に対して効果の高いベストガード粒剤やスタークル粒剤を定植時に施用します。これらの粒剤は残効期間が長いので、長期間の防除が期待できます。

B 定植後から収穫期

●うどんこ病は予防的な散布により防除します

うどんこ病は発病後、急速に蔓延することがあるため、発病前から定期的に薬剤を散布します。インプレッション水和剤、ジーファイン水和剤等の「化学合成農薬に含めない農薬」を活用することにより農薬使用成分回数を低減できます。これらの農薬は、発生が多くなってからでは十分な効果が期待できないため、予防的に使用します。



▶うどんこ病の被害葉

●発病葉や下葉の除去によりうどんこ病が発生しにくい環境を整えます

下葉はうどんこ病が発生しやすく、また、生長して葉が混み合ってくると農薬がかかりにくくなります。下葉を摘葉して風通しを良くし、農薬が付着しやすいように栽培条件を整えます。初発時には発病葉を除去してうどんこ病菌がハウス内に拡散するのを阻止し、病気の蔓延を防ぎます。



▶うどんこ病は下葉で発生が多い

●適期収穫により草勢を維持します

うどんこ病は、草勢が低下した株で発生しやすいので、側枝や不良果は早めに除去して草勢の維持に努めるとともに、適期に収穫して着果負担を軽減します。収穫期後半は草勢が低下しやすいので注意が必要です。

●害虫は発生状況を観察し、発生初期に防除します

粒剤の効果が低くなってから定植3~4週間後から、アブラムシ等の害虫の発生状況を把握し、発生初期に防除をします。

「化学合成農薬に含めない農薬」であるエコピタ液剤、サンクリスタル乳剤は、虫の体表面を物理的に覆うことで殺虫効果を発揮するため、使用する場合は薬液が直接虫体にかかるように葉裏までムラのないように散布をします。